

【臨床・研究】

電子ニコチン・非ニコチン送達システム
の未成年者の使用規制に関して

いづみ 泉 のぶ お 夫

キーワード：電子たばこ，ニコチン送達システム，電気加熱式たばこ，若者，規制

要 旨

欧米や韓国では近年、電子たばこ（電子ニコチン・非ニコチン送達システム；ENDS/ENNDS）の使用が急上昇している。日本は国内法で抽出ニコチンの使用は医薬品にしか使えない。後者は若者も購入でき、国外からニコチン入り溶液を個人的に入手可能で、法の遵守の抜け道が黙認されている。ENDSは成人では有害成分の少ない、燃烧性たばこの代替品ともいえるが、米国では、若者の使用は後の燃烧性たばこの使用者を増している。日本も、ENNDSでも心理的依存から同様の結果が予想されるし、現在、前進しつつある非喫煙の常態化を逆行させる。日本の成人ではENDSの1つとも考えられる電気加熱式たばこの人気最近高まり、他の電子たばこの市場は大きくない。今の内に、法の遵守を徹底すべく、ENNDSを含め使用禁止にすることを望む。

はじめに

電子たばこは、原型は1965年に考案され、2003年に中国で製品化され、2007年より国際市場に出、欧米や韓国では使用者数は幾何級数的に増加した¹⁾。米国では2011年から使用者の調査が始まり、2014年には若者では紙巻たばこを抜き第1位になった²⁾。

電子たばこはニコチン溶液をバッテリーからの電流で加熱し気化させ吸引するが、直ぐに冷やさ

れ霧状となり、呼気はたばこの煙を吐く様に似る。電気製品だけに改造、進化が速く、当初の紙巻たばこに似た外観から変容、大型化し、電圧も3Vから高いものは8V程になり、調節や改造が可能な製品も現れた。

2014年には466のブランドと7764の独特の香料添加剤“フレーバー”を含む製品があり³⁾、呼称もelectronic cigaretteの他に、vape pens, mechanical mods等々様々で⁴⁾、健康リスクや社会的影響の研究・調査を難しくしている。

WHOでは2014年10月の第6回たばこ規制枠組条約締約国会議において、ニコチンを含むニコチン送達システム（electronic nicotine delivery

Nobuo IZUMI

出雲市

連絡先：〒693-0021 出雲市塩冶町909-3

出雲市